

〔18年2月号月報の概要〕

1 市場動向の概要随時

(1) 野菜

12・1月の実績

・12月の全体の入荷量は前年並、価格は前年比1割増。1月上旬の入荷量は前年比1割増、価格は前年比3割増。中旬の入荷量はやや下回り、価格は1割増となった。

・1月に価格が前年より高かった品目：だいこん、かぶ、ほうれんそう、生しいたけなど多数

2月の見通し

・入荷量は全般に前年を上回り、だいこん、ねぎ、レタス類などは価格が前年を上回る見込み。

(2) 果実

12・1月の実績

・12月の全体の入荷量は前年比1割増、価格は2割減。1月上旬の入荷量は1割増、価格は前年比5%増、中旬は入荷量前年やや下回り、価格は前年比1割減となった。

・1月に価格が前年より高かった品目：かんきつ類、メロン類

2月の見通し

・みかん類、りんご類、いちご類が中心に出回る。

・入荷量は全般に前年を上回り、みかん類、りんご類などは価格が前年を下回る見込み。

(3) 花き

(1月入荷状況)

・昨年末から続く寒波、曇天による日照不足、重油高騰による暖房の設定温度の低下から、各産地とも生育が回復せず、予想された生育遅れ分の大量入荷は避けられた。業務需要中心で特に需要も多くなかった時期であったが、逆に品薄高となる品目も散見されるなど終始安定した相場展開となった。

(2月見込み)

・入荷量は徐々に回復してくる見込みだが、2月は月末に卒業式需要が動き始めるもののそのほかに大きな需要もなく小売の動きも鈍いため、大幅な増量は厳しい販売環境になる。

2 輸入青果物の品目別累計速報

・17年11月までの入荷実績は、生鮮野菜では数量ベースで前年比113%、金額ベースで98%。生鮮果実では数量ベースで前年比99%、金額ベースで99%となっている。

3 消費地からのホットニュース、トピック

(1) 業界紙が選んだ2005年重大ニュース

(2) インターネットを利用した生鮮食料品の購入状況に関するアンケート調査

(3) 東北・北海道地域における道県別食料自給率

(4) 実需者とうまく付き合うために

(5) 2005年ヒット商品番付

(6) オーストラリアからさくらんぼ輸入